『百人一首』中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力（十五）

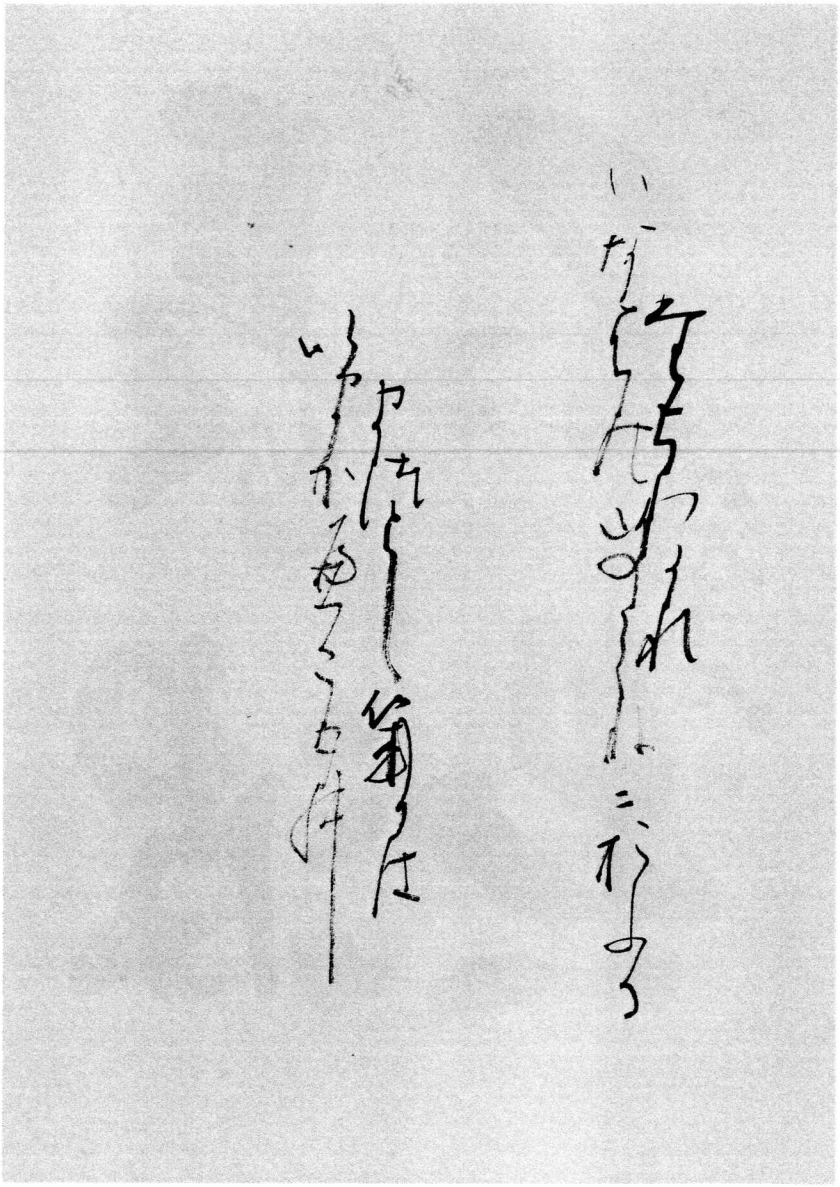
立ち別れいなばの山の峰に生ふる　まつとし聞かば今帰り来む
中納言行平

〈歌意〉
「あなたと別れて因幡国へ行っても、あの因幡山の松のように待っていると聞いたなら、すぐ帰って来ましょう。」
この歌は『古今集』（離別・三六五番）に出ています。

（中納言行平）
弘仁九（八一八）年～寛平五（八九三）年、七六歳。在原業平の異母兄。

〈字母〉
堂ちわ可れ
いな者能山のミね二於ふる
ま徒とし　幾何は
以まか遍こ舞

この歌は、上の句と下の句を一行の散らし書きのように寄せて書かれています。（中村青藍）



中村素堂先生の書　大島香菊様提供